

ジェラシー

シリーズ～詩編～

2015/9/13

詩編73篇

【賛歌。アサフの詩。】

神はイスラエルに対して

心の清い人に対して、恵み深い。

それなのにわたしは、

あやうく足を滑らせ

一歩一歩を踏み誤りそうになっていた。

神に逆らう者の安泰を見て

わたしは驕る者をうらやんだ。

死ぬまで彼らは苦しみを知らず

からだも肥えている。

だれにもある労苦すら彼らにはない。

だれもがかかる病も彼らには触れない。

傲慢は首飾りとなり

不法は衣となつて彼らを包む。

目は脂肪の中から見まわし
心には悪だくみが溢れる。

彼らは侮り、災いをもたらそうと定め
高く構え、暴力を振るおうと定める。

口を天に置き／舌は地を行く。

（民がここに戻っても／水を見つけるこ
とはできないであろう。）

そして彼らは言う。「神が何を知って
いようか。いと高き神にどのような知
識があるろうか。」

見よ、これが神に逆らう者。

とごしえに安穩で、財をなしていく。

わたしは心を清く保ち

手を洗って潔白を示したが、
むなしかった。

日ごと、わたしは病に打たれ
朝ごとに懲らしめを受ける。

「彼らのように語ろう」と望んだなら
見よ、あなたの子らの代を

裏切ることになつていたであらう。

わたしの目に労苦と映ることの意味
を知りたいと思ひ計り

ついに、わたしは神の聖所を訪れ

彼らの行く末を見分けた

あなたが滑りやすい道を彼らに対し
て備え

彼らを迷いに落とされるのを

彼らを一瞬のうちに荒廃に落とし

災難によつて滅ぼし尽くされるのを

わが主よ、あなたが目覚め

眠りから覚めた人が夢を侮るように
彼らの偶像を侮られるのを。

わたしは心が騒ぎ

はらわたの裂ける思いがする。

わたしは愚かで知識がなく／あなた
に対して獣のようにふるまっていた。

あなたがわたしの右の手を取つてくだ
さるので

常にわたしは御もとにとどまることができ
る。

あなたは御計らいに従つてわたしを導
き後には栄光のうちにわたしを取ら
れるであらう。

地上であなたを愛していなければ

天で誰がわたしを助けてくれようか。

わたしの肉もわたしの心も朽ちるであ
らうが

神はとこしえにわたしの心の岩

わたしに与えられた分。

見よ、あなたを遠ざかる者は滅びる。
御もとから迷い去る者をあなたは絶
たれる。

わたしは、神に近くあることを幸いと
し主なる神に避けどころを置く。

わたしは御業をことごとく語り伝え
よう。

アサフについて

- ダビデが神の箱をエルサレムに運び上った時、賛美を歌う任務を与えられた
 - 「ダビデはレビ人の長たちに命じて、詠唱者であるその兄弟たちを任務に就かせ、琴、豎琴、シンバルなどの楽器を奏で、声を張り上げ、喜び祝うようにさせた。レビ人たちはヨエルの子ヘマン、その兄弟の一人ベレクヤの子アサフ…を任務に就かせた。」[歴代誌下15:16-17]
- 子孫は、エズラが神殿を再建した時、賛美の奉仕をした
 - 「建築作業に取りかかった者たちが神殿の基礎を据えると、祭服を身に着け、ラッパを持った祭司と、シンバルを持ったアサフの子らであるレビ人が立って、イスラエルの王ダビデの定めに従って主を賛美した。」[エズラ3:10]
- 詩編50, 73～83篇の12篇の作者

うらやみ,よろめく作者

神はイスラエルに対して
心の清い人に対して、恵み深い。
それなのにわたしはあやうく足を滑らせ
一歩一歩を踏み誤りそうになっていた。
神に逆らう者の安泰を見て
わたしは驕(おご)る者をうらやんだ。

- 神は「心の清い人に対して、恵み深い」と信じてはいたが…
- 「神に逆らう者の安泰を見て」うらやましく思った
 - ◻ 神に逆らっていても悪いことが起こらない
 - ◻ 一生懸命神に従い、心清く歩んできた努力を空しく感じた
- 「あやうく足を滑らせ」「踏み誤りそうになった」た
 - ◻ 神に従う道から外れそうになった

神に逆らっているのに…

死ぬまで彼らは苦しみを知らず／からだも肥えている。だれにもある労苦すら彼らにはない。だれもがかかると病も彼らには触れない。目は脂肪の中から見まわし／心には悪だくみが溢れる。彼らは侮り、災いをもたらそうと定め高く構え、暴力を振るおうと定める。口を天に置き／舌は地を行く。そして彼らは言う。「神が何を知っていようか。いと高き神にどのよう知識があろうか。」見よ、これが神に逆らう者。とこしえに安穩で、財をなしていく。

• 幸せそうな様子

- 「苦しみを知らず／からだも肥えている」
- 「だれにもある労苦すら彼らにはない」
- 「だれもがかかると病も彼らには触れない」
- 「とこしえに安穩で、財をなしていく」

• 平気で悪事を企てる

- 「心には悪だくみが溢れる」
- 「災いをもたらそうと定め」

• 神を侮り見下げる

- 「神が何を知っていようか。いと高き神にどのよう知識があろうか。」

神に従っているのに…

わたしは心を清く保ち
手を洗って潔白を示したが、むなしかった。
日ごと、わたしは病に打たれ
朝ごとに懲らしめを受ける。
「彼らのように語ろう」と望んだなら
見よ、あなたの子らの代を裏切ることになってい
たであろう。

- 心を清く保ってきたが「むなしかった」
 - 悪事から遠ざかってきた
- 「日ごと、わたしは病に打たれ／朝ごとに懲らしめを受ける」
 - 「一日中打たれどおし」〈新改訳〉
 - 後から後から苦難が続く
- 神に逆らう者のように、神をあなどる発言をしそうになった
 - 自分を信じて神に従っている若者たちを裏切りそうになった

祈りの中で我に返る

- なぜこんな目にあっているのか？
 - 「目に労苦と映ることの意味を知りたい」
- 神殿で祈り, 悟りを得る
 - 「ついに, 神の聖所を訪れ」: そうしようと思
うまで時間がかかった
 - 「彼らの行く末を見分けた」
- 神に逆らう者はいずれ滅びる
 - 「彼らを迷いに落とされる」
 - 「一瞬のうちに荒廃に落とし」
 - 「災難によって滅ぼし尽くされる」

わたしの目に労苦と映ることの意味を知りたいと思
い計り

ついに、わたしは神の聖所を訪れ

彼らの行く末を見分けた

あなたが滑りやすい道を彼らに対して備え

彼らを迷いに落とされるのを

彼らを一瞬のうちに荒廃に落とし

災難によつて滅ぼし尽くされるのを

もう一度信仰の確信にたつ

わたしは愚かで知識がなく
あなたに対して獣のようにふるまっていた。
あなたがわたしの右の手を取ってくださいるので
常にわたしは御もとにとどまることができる。
あなたは御計らいに従ってわたしを導き
後には栄光のうちにわたしを取られるであろう。

- かつて神に対して不遜な態度を取っていたことを反省する
 - 「獣のようにふるまっていた」
- 神がわたしをつかまえて下さっていた
 - 「あなたは私の右の手を**しっかりつかまえられました**」<新改訳>
 - 「御もとにとどまることができる」
- 計画の中を導かれるなら、栄光に預らせていただけ
 - 良いことも悪いことも神の「御計らい」があつてのことである

揺らぎつつ成長する信仰

神に従わない人の幸福を見て嫉妬する

神に従っても不幸にあらうことで信仰が揺らぐ

礼拝と祈りの中で悟る

新たな確信を与えられる